



邑楽館林農業協同組合
代表理事組合長 江森 富夫

新年のご挨拶

～農を軸に地域に根ざす～

あけましておめでとうございます。

組合員および地域の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

今年は何年です。「酉」には「鶏」があてはめられます。

古来より鶏は朝一番に鳴くことからとても縁起が良いといわれています。古代には暁を告げ闇を払う鳥とし、太陽に関係ある霊鳥として尊ばれたともいわれています。鶏は素直で喜びや、驚く様子が分かりやすく楽しい動物です。昔は農家の庭先でよく飼われていました。美味しい卵を産んでくれるほか、鶏自体も食用として重要であり、私たちの生活を支えてくれています。

また、「酉は「とりこむ」に繋がるとも言われ、運気やお客様を取り込み、商売などにも縁起が良いとされています。皆様におかれましても、農畜産物の生産や販売などで成果が得られる年になることを願っております。

さて、昨年の管内農業の情勢については、米麦・野菜・畜産とも

販売が好調に推移して、安定した農業収入が得られた年でありました。

水稲では8月後半に度重なる台風の影響が心配されましたが、収穫時の作況指数は102で、あきひの夢を中心に高品質の米が収穫されました。当JAの集荷目標の30万俵も達成できました。全国で新規需要米の生産が拡大し、主食用米の需給バランスが改善したことにより28年産米の販売米価は上昇し、生産者の米づくりへの意欲も高まっています。

農業所得の増大を目指し、30年度から適用される新たな農業政策が協議されており、農政事業を活用することで、組合員皆様の農業経営の安定を図れるように、今後も行政とも連携して取り組んでまいります。

園芸関係では国の補助事業である産地パワーアップ事業を活用してレタス栽培の生産振興を行いました。また、水田地帯での土地集積事業と連携し、「レタス・キャベツ」の栽培を行い、新たな露地野菜産地としての第一歩

を踏み出しました。

平成27年から稼働したキュウリパッケージ事業は生産者から好評を得て、抑制キュウリでは97名の生産者の参加に拡がり、キュウリに加え露地ナスのパッケージ受委託作業も開始しました。

地域の主力野菜生産力維持のため、農家の労力支援を引き続

き進めてまいります。

また、農産物直売所「ぼんぼこ」「食彩館」ともに、管内はもとより周辺地域の皆様に繰り返しご利用いただける店舗となりました。鮮度の高い農産物の直売所として認知いただき、特に「ぼんぼこ」では昨年の年間販売額が10億円を超えることができ

ました。

支所再編への取り組みでは、平成26年12月の臨時総代会で承認された22支所を10支所に統合する「支所再編計画」と地域農業の振興と営農経済事業改革を盛り込んだ「新・農業ビジョン」に基づき、支所再編第1号店となる「館林北支所」が10月11日にオープ

本年は、千江田・梅島・佐貫の3支所を再編する明和支所の建設に着手します。組合員の皆様にご協力をいただきながら、平成29年度内開店のための手順を進めてまいります。

本年は第二次経営刷新3か年計画2年目の年です。目標達成に向けて取り組む「3つのビジョン」、「新・店舗づくりビジョン」、「新・農業ビジョン」、「人づくりビジョン」を役職員一丸となって実践してまいります。

協同の力を発揮するためには組合員や地域の皆様の参加と協力が不可欠です。さらなるご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸とご繁栄を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



新たな産地として取り組む露地野菜(キャベツ畑)